



特定非営利活動法人
ぶれいす東京

20th
ANNIVERSARY

Newsletter

2014年5月号 No.81

CONTENTS

「希望をつなぐ、仲間をつなぐ」.....	01
「SEXUAL HEALTH BOOK ② (SHB2)」発行！.....	02
「HIV陽性者参加支援スカラシップ」報告会.....	03
ぶれいす東京「地域における当事者支援のためのスタディ・プログラム」開催.....	04
ネスト・プログラム.....	05
部門報告 (2014年1~3月).....	08
ぶれいす東京 2013年度活動報告会のご案内.....	12

ぶれいす東京設立 20 周年記念巻頭シリーズ 第 1 弾

「希望をつなぐ、仲間をつなぐ」

東 優子

1994年、池上千寿子さんたち10数名の仲間がHIVと人権情報センター(JHC)を離れて新しい団体を立ち上げると聞いたのは、憧れだったChizuko Ikegamiの足跡をたどるように留学したハワイで、エイズ関連のケースマネージャー実習をしている最中のことでした。私のボランティア・デビューはそれより3年ほど前。山口勝久さんが事務局長をしていたJHC東京支部での「36時間AIDS電話相談」です。

日本での「感染爆発」が懸念されるなか、当時の予防啓発活動で繰り返されていたのは、「感染後の潜伏期間は平均で約7年。AIDSを発症してしまうと約2年で死を迎える」という絶望的な内容でした。「感染＝社会的死」あるいは「発症＝死」が強く意識される、そんな時代でした。

私をボランティア活動に誘ってくれたのは、ヒデキ(砂川秀樹)です。今でこそ「東京レズビアン&ゲイパレード」実行委員長をはじめとする数々の業績で名の知れた彼ですが、二人の出会いは留学先のシアトルで、高校1年の時でした。帰国後も遠距離電話で交流を深め、世間話から政治問題まで何でも語り合い、同じ大学を受験するために私の実家に宿泊までした、そんな彼にゲイだとカムアウトされたのは、大学に入ってからのことです。「今まで言えなかったことがある」と言われた時に覚えた衝撃(事実の重み)が、現在の仕事や社会的活動の、私の原点です。

こうして当時の思い出話をする時、事実を正確に記述したいと思いながらも、長い歳月で記憶というデータが自分に都合よく上書き保存されてしまっているようにも思います。どこまでが本当だったのか、思い違いや勝手な脚色もあるでしょうが、私にはもう一つ、忘れられない思い出があります。

童顔のA君は、ハワイ留学前の東京で毎週のようにつるんで遊んでいた仲間の一人でした。その彼が突然姿を見せなくなり、入院していると教えてもらいました。何のための入院なのか、当時の恋人でさえ知られていませんでした。それでも何となく、だた何となく、皆がひとつの病名を思い浮かべていたように思います。そんなあ

る日、「近所まで来たから」と言って現れた彼は激痩せして、別人のようでした。「元気になったらまた遊んでね」とだけ言い残して帰って行く、その後ろ姿に抱いた不安は、すぐに現実のものとなりました。

私たちのほとんどがまだ20代前半で、社会人として葬儀に参列した経験もなく、何をどうしたらいいのかわからない状態でした。そこで相談に集まった仲間の一人がこんなことを言いました。「女はいいけど、僕たちが集団で行ったらマズインじゃないかな。」家庭や職場でクローゼットなゲイだった彼の秘密を守らなければ、という気持ちから出た発言でしたが、そんな馬鹿な、こんな悲しい台詞があるのでしょうか。

お通夜では、彼の部屋に案内してくださったお父様の一言に、そこにいた全員が戸惑うという場面もありました。「この部屋にある息子の遺品をすべて、お友達だった皆さんで持ち帰ってください。」…全部？…勉強机の奥には、ゲイ雑誌や写真など、彼の秘密を示すものがありました。「お父さん、知ってたのかな」「息子の大事な遺品なのに」「A君は僕達に真実を伝えて欲しいかな」ご遺族の気持ちも、A君の気持ちも、私たちにはそうなのかどうか想像することしかできず、悲しさだけが募ってゆく、そんな夜でした。

あれから20余年。この間、いろいろな出会いと別れがありました。HIV感染症やLGBTQなど、「性の健康と権利」をめぐる状況には大きく変わったこともありますが、絶望的に変わっていないことも多々あります。それでも、私たちには希望がある。希望があるから、続けられてきた。その希望とは、「絶望を分かち合うことのできる仲間」*の存在です。そしてそんな希望をつなぎ続けてくれる一つが、「ぶれいす東京」なのです。20周年、おめでとうございます。

* 熊谷晋一郎さんのインタビュー記事「自立は、依存先を増やすこと。希望は、絶望を分かち合うこと」(TOKYO人権 第56号, 2013)

「SEXUAL HEALTH BOOK ② (SHB2)」発行！

2000年に発行されロングセラーとなった「SEXUAL HEALTH BOOK-Let's CONDOMing」が、内容も装いも新たに「SEXUAL HEALTH BOOK ② (SHB2)」として生まれ変わり、2014年2月に発行されました。

SHB2ができました！！

ふれいす東京が産声をあげてから20年、この間たくさんのメッセージを冊子という形で発信してきました。この発信には大きく2つの流れがあります。予防啓発系とケアサポート系です。とはいえ、私たちは予防とケアとをつなぐ戦略としてLiving Together計画も推進し、LT系冊子も数多く編み出しているわけで、2つの流れは時に合流し、時に分岐をしながらその流域を広めているのです。

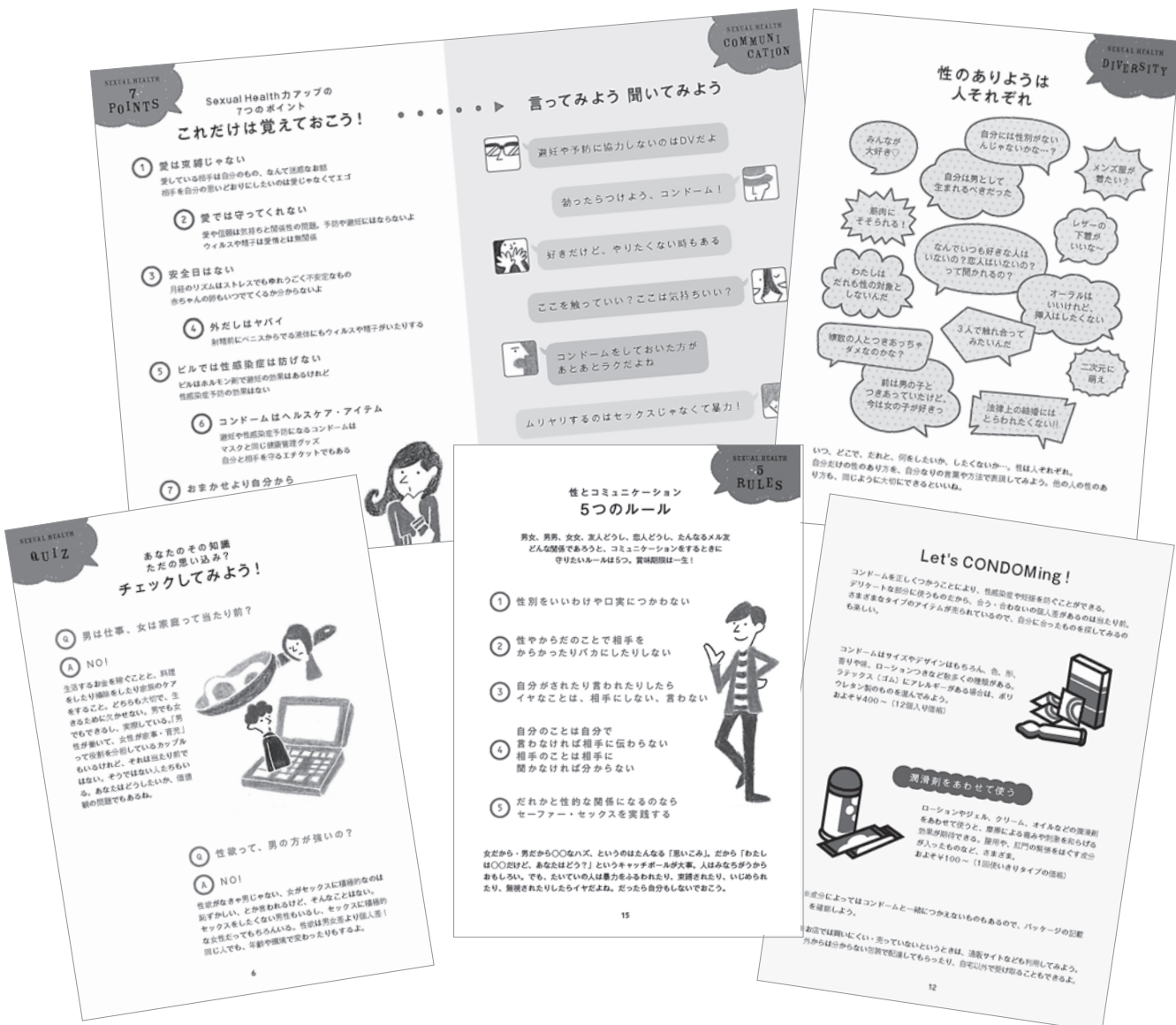


「SEXUAL HEALTH BOOK ②」表紙

さて、大変ながらくお待たせいたしました！ SHB2ができました。前作SHB Let's CONDOMingは2000年刊行以来増版を続けてきたロングセラー、6穴式手帳に挿入できる画期的デザインで男性用・女性用コンドームの使い方をかわいいイラストで紹介しました。けれど女性用コンドームは市場から姿を消し、若者の手帳も多様化するばかり。とはいえ、「安心できるともっと感じる」「失敗は人生の終わりじゃない」などのコピー&SHメッセージは、古びるどころか普遍的であることがこの10年で証明されたとも言えます。そこで、普遍的コンセプトに新たなテーマをもちこんで、なおかつA6版16ページに収めようという「SHB2プロジェクト」をたちあげました。

多様性とセクシュアルヘルスをつなげよう

前の冊子ではふれていなかったテーマ、それはデートDVと性の多様性です。若者のセクシュアルヘルスは望ま



ない妊娠と性感染の予防が中心でしたが、さらにデートDVと性の多様性の理解が不可欠となり、教育現場でも取り上げられるようになりました。デートDVやLGBTに関わる支援組織やNPOがそれぞれに優れた冊子を作成しています。専門家や当事者たちがさまざまに情報発信をしています。でも、これら多様なテーマが「その人たちのこと」でおわってしまっただけではもったいない。関心のある人しか見ない・読まない、になってしまう。そうではなく、性についてはなんであれ自分のことでもあるのだ、と気づくチャンスになるような冊子があるだろうか？ SHB2プロジェクトはここから出発しました。「無いなら作ろう！」というわけです。

そのためにはどんな工夫が必要でしょうか？ 字数はなるべく少なく、しかも読みやすくわかりやすいものでなくてはなりません。そこで「テーマごとに完結ではなく流れをつくる」「テーマの医学的解説をしない」「統計データを使わない」「偏見と思いこみに気づくための工夫をする」などとなりました。いいかえると、性をテーマごとの縦割りで扱うのではなく、16ページの流れのなかで「性の健康ってなんだろう」からはじまって「他人事と自分事はじつは無関係ではないのかもしれない」と気づきつつ、「性は関係とコミュニケーションのことなんだよね」と納得してもらおう、という欲張りな狙いをこめました。そんなこと無理でしょ！ いえ、新藤岳史さん（デザイン）、モリケイさん（イラスト）という強力なおふたりとタグを組んで、できました！

性教育セミナーでSHB2デビュー

100年ぶりの大雪が2度も関東を襲うという、その大雪に挟まれた2月11日「第2回HIVと性の教育セミナー」を開催しました。今回のテーマは「いつでも どこでも だれにでもできる性の教育」です。プログラムは①多様な性

のテーマに通底する課題はなにか、子どもに伝えたい基本メッセージはなにかを考える（講演：池上）。②伝える一つの工夫としてSHB2を紹介する（報告：PEP）③自分の伝えたいメッセージをコピーにしてみよう（グループワーク）の3部構成です。参加は36名。助産師、保健師、教員、看護師、大学院生、NPOスタッフなどのみなさんと福岡、兵庫、大阪、奈良、静岡など各地からかけつけてくれました。デビューしたSHB2について、参加者からのコメントを紹介しましょう。

- ・ Sexual Healthを語るときにDiversityをからめるのはあるべき姿と思いました。とても有効なコンビネーションだと思いました。(20代)
- ・ 活用したいと思える、思いのこもったものだと思う(20代大学院生)
- ・ 性のことだけでなく多様性やコミュニケーションについて書かれてあるのが新しいし、活用できると思います。(40代助産師)
- ・ こういう冊子を全体に配布したいのですが、行政というところで受け入れられるか心配ですが、挑戦したいと思います(30代保健師)
- ・ 誰でも手に取りやすい読みやすい冊子でした。今までに無いタイプ、個人的にとっても好きです。(20代保健師)
- ・ 親や先生にみられても恥ずかしくないというのがとてもありがたいです。(30代)

※このセミナーは日本性教育協会の協賛で実施されました。日本性教育協会はSHB2の制作にも協力していただきました。

みなさんも是非手に取ってみてくださいね。(池上)

「HIV陽性者参加支援スカラシップ」報告会

ぶれいす東京がはばたき福祉事業団と日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス、エイズ予防財団との協働で実施した「第27回日本エイズ学会学術集会・総会 HIV陽性者参加支援スカラシップ」の報告会が開催されました。

2月16日（日）、大雪の影響が残る中「HIV陽性者による第27回日本エイズ学会参加報告会」が開催されました。当日は、各地から参加した3名のHIV陽性者が、スカラシップを利用して参加した学会の感想や、日々の生活で感じていることなどをいきいきと語りました。

HIV/エイズに関わる最新の知見を得られる場である日本エイズ学会に、ひとりでも多くのHIV陽性者が参加できるよう2006年に設立された「日本エイズ学会学術集会・総会 HIV陽性者参加支援スカラシップ」も今年で8回目の実施。寄付集めの難しさに加え、今年は地理的条件により参加費用が高額になったことから、例年よりスカラシップ支給枠は減少しましたが、それでも34名のHIV陽性者に学会参加の機会を提供することができました。

寄付や助成をいただいた製薬企業をはじめ、プログラ

ムの運営にさまざまな形で協力いただいた皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

本プログラムのくわしい活動内容とこれまでの実績などについては、スカラシップ委員会のWebページをご覧ください。当日の会場で配布した「第27回日本エイズ学会学術集会・総会 HIV陽性者参加支援スカラシップ 報告書」のPDF版も公開しています。

<http://www.ptokyo.com/scholarship/>



HIV陽性者の視点による日本エイズ学会レポートがびっしり

(報告：生島・大槻)

「地域における当事者支援のためのスタディ・プログラム」開催

各地のHIV陽性者や周囲の人たちへの支援の実践に役立ててもらうための研修プログラムが、初めての試みとして2月8日～9日に実施されました。

ネスト・プログラムは、ミーティングの安全を確保するために、参加者には、1)プライバシーの守秘を含むグラウンドルールの承諾と利用登録、2)個々のミーティングの参加条件に合致するかどうかの事前確認を行っています。さらに、運営上も、個人情報の管理の徹底や、ミーティング会場に入れるスタッフを限定するなど様々な制約を設けています。そのため、これまで第三者のミーティング見学希望があってもお断りしてきました。しかし、東京以外の地域でHIV陽性者むけプログラムを実践している人たちを支援する必要性が高まっていることを受け、ミーティング見学を含めた研修プログラムを開催することにしました。

このプログラムの目的は、ぷれいす東京がこの20年にわたり積み上げてきたプログラム運営のノウハウを共有し、各地のHIV陽性者や周囲の人たちへの支援の実践に役立ててもらうことです。そのため、プログラムは、講義とミーティング見学を組み合わせた構成としました。今回は、いくつかのエイズ診療ブロック拠点病院と連携して参加者の募集を行ない、新潟からソーシャルワーカーが、鹿児島からは支援団体のメンバー2人が参加してくれました。

今回の研修を開催するにあたり、数ヶ月前からミーティング参加者たちに、プログラムの趣旨を説明してきました。「東京ではミーティングがあるが、地方では十分でないこと」、「地域でのあらたな取り組みを支援すること」が、各地のHIV陽性者や周囲の人たちの支援になること」など。

当日、大雪にもかかわらず、ミドル・ミーティング(40代以上の男性陽性者)は14人が参加し、U40(10～30代男性陽性者)にも4人が参加しました。見学者の3人には、ついたての後ろから様子を聞いていただき、最後には見学をした感想を自己紹介を交えて話してもらいました。

プログラム立ち上げや運営に関わる各地域の人たちを支援するこの研修会は、今後も継続していく予定です。ネスト・プログラムは東京という環境のなかで実践されているものですが、各地の取り組みにも役立つことがあるはず。 (報告：生島)

研修プログラム参加者より

「雪ニモマケズ…」 H・K(30代男性／新潟県／MSW)
現在ピアミーティングを新潟でも開催できないかと検討しています。ですがこれまで実際の様子を見たことがなく、またどのような運営をされているのか知りたいこともあり、今回の研修に参加いたしました。

初日はまずオリエンテーション受講。プライバシーを気にされる参加希望者にとっては、登録制やグラウンドルールの存在が不安の軽減につながると感じました。ただ、東京と違い地方では事前の説明や登録が難しい場合があり、参加しやすさとプライバシー保護のバランスを

プログラム内容

1日目 2014年2月8日(土)

11:00-11:45	ネスト・プログラム利用登録制度の説明と守秘承諾(HIV陽性としての参加者は利用登録)
11:45-12:30	昼食
12:30-15:30	ミーティング見学／参加①[ミドル・ミーティング]
16:00-16:30	質疑応答
17:00-19:30	ミーティング見学／参加②[U40ミーティング]
20:00-21:00	振り返り、質疑応答
21:00-22:30	意見交換&懇親会(会費制)

2日目 2014年2月9日(日)

10:00-11:00	講義「相談事業とグループ・プログラム、ケアサービスの連携」生島嗣
11:00-12:00	講義「陽性とわかって6ヶ月以内の人への支援プログラムPGM」加藤力也
12:00-13:00	昼食
13:00-14:00	講義「ネスト・プログラムの紹介と、人材育成について」佐藤郁夫
14:00-15:00	講義「バディ派遣による在宅支援プログラム」牧原信也
15:00-16:00	意見交換 生島嗣ほか

どう取るか考える必要がありそうです。

その後ミドルとU40の二つのミーティングを見学(むしろ聴学?)し、病院ではなかなか聞けない生の声を聞けました。まさかの大雪にも関わらず、どちらも予定通り開催できたのは各ミーティングが「必要なもの」として受け入れられているからではないかと思います。

翌日は様々なプログラムや人材育成等について講義を受けました。現在ぷれいす東京では相談事業やピアミーティング、バディ派遣等様々な取り組みがあり、その成り立ちや現状・課題について学びました。人材育成も行いつつニーズに応じ支援方法を形作っていくことで、現在のような支援の広がりが生まれているのだと思います。

2日間ぎゅっと中身の詰まった研修でした。ミーティングを聴学?させて頂いた皆さんや研修企画いただいたぷれいす東京の皆さん有難うございました。今後の活動に生かしていきます。

「仲間との出会い」 Rinかごしま ユタカ(50代／男)

私自身陽性者であり、陽性者支援活動の両面から参加させてもらいました。現在「Rin かごしま」で陽性者の支援活動、啓発活動を行っておりますが、陽性者、支援者の立場を改めて理解することと、活動の難しさを感じました。

ミドルとU40の陽性者ミーティングに参加しましたが、とても落ち着いた場所でした。同じ陽性者仲間であること、そしてセクシュアリティを隠すこともなく前向きな

話、また現在抱えている心配事や不安、情報の交換など。陽性者同士であると言う前提が安心して話せる場となるのでしょうか。ミドルとU40の悩み、抱える問題の違いは有りましたが、HIV/AIDSを受け止め、今後どのように付き合っていくのかはみな同じ。確かに答えは出ないかもしれないし、一人ひとり抱える問題は違うのかもしれませんが、ただ安心できる場所であることには違いない、やはりピアミーティングの必要性和重要性を感じました。それとファシリテーターによるスムーズな進行、とても重要な役割であり、ピアだからこそみな安心して集えるのだと感じました。

地方と東京では、支援活動やグループミーティングなど、出来る事の違いはありますが、いずれにしても陽性者支援には変わらない、地方で出来る陽性者支援の在り方を考え、新たな活動をして行きたいと思います。またこのような機会や研修があれば、是非参加してみたいです。今後ともよろしくおねがいします！

「当事者・関係者が語り合える場が求められている」

NPO Rin かごしま 里山太郎(男/67歳)

他の病気が原因で東京で入院した亡息子が、その検査の過程で HIV の陽性者であることを知らされた私たちは、当時無知なことが多く、家族関係にもひびがはいったりして、様々な思いを誰にも語れない辛さを感じ、悶々としていたものでした。

それでも、息子は、東京では「ぶれいす東京」と少しは繋がりをもっていたのですが、鹿児島で療養生活を送るようになってからは、それができなくなり孤独感を感じていたはず。それは、私たち両親も同じで HIV のことで心を割って話ができる人がいませんでした。それら

のことが、鹿児島にも陽性者支援の NPO を作ろうという呼びかけに賛同することに繋がっていきました。今回の研修会の感想は、そんな私自身の体験と密接不可分のもののような気がします。

まず、初日の2つのミーティングを傍聴させてもらった感想です。参加者から、主治医との関係、性感染・SEX への対応、喫煙問題等、多様な今感じていることが次々と出されていたにもかかわらず、話が散漫になるということもなく進行していたと感じました。それは、翌日の講義でスタッフから話されていたミーティング等での「司会・進行」の役割の検討・研究の積み重ねが大きな要因だとわかりましたが、そして、とりわけ「結論を押し付けない」「一つの問題について、多様な経験を交流しあう」ことを前提に運営されていることに共感を覚えました。私自身の経験からも、解決策を知りたいということよりも、悩み・不安を出せる場が欲しいということが当事者・関係者の最大の願いであると思いますし、それが、鹿児島にも NPO を作ろうというエネルギーだったような気がするからです。

ただ、うらやましい？ と、思ったのは、翌日の講義でも紹介された多くのネスト・プログラムのように多様な当事者たちのニーズに即した内容が準備されていることです。「鹿児島では、まねできないので、どこからスタートすればよいのか」重い宿題もいただきました。膨大な講義資料も、単なるマニュアル資料ではなく、経験の中で積み上げられたものであることがよく伝わってきます。今回は、ぜひ予算づくりの苦労なども学ばせてもらいたいのですが、いかがでしょうか。

舌足らずの感想で申し訳ありませんが、本当にありがとうございました。

ネスト・プログラム

定期的開催されているグループ・ミーティングの中から、「U40 ミーティング」、「異性愛者交流ミーティング」、「陰性パートナー・ミーティング」の参加者の感想文をお届けします。

U40 ミーティング

2013年12月25日のU40ミーティングは“クリスマス仕様”で開催されました。それぞれの参加者が話したいことを匿名で書いて箱に入れてもらい、それを1つずつ選んで、答えられる人に答えてもらうという方法です。7名の参加があり、そのうちの3名の感想をご紹介します。

「想いを感じる場」

10 Si (告知年：2012年8月/投葉中/初参加)

以前から参加したいと思っていましたが、タイミングが合わず今回初参加となりました。

2012年の春頃から体調不良が続き、その当時はオーバーワーク気味な毎日だったので、それが原因で体調が悪いのかなと…まさか HIV に感染しているとは考えられな

いでした。夏になっても体調が良くなることはなくどんどん悪化していき、ハッ！と思いついて検査を受けてみたら感染が発覚しその後、即入院という状態でした。

退院後は病気を会社に伝えたことで自宅待機～退職することになりました。働かないと！という強い思いに動かされたこともあり、不安や悩みという部分にはあまり目を向けようわざと過ごしていた部分と、でもやっぱり同じ病気を抱えた人との接点を持てたらいいなという思いでいました。

無事に HIV を理解し受け入れてくれる会社へ就職することができ、自分の中で落ち着くこともできプログラムへ参加させていただきました。インターネットで調べれば分かる情報や解決できることも、もちろんあってこれまではそうして過ごしてきました。プログラムではインターネットの情報だけでは伝わらない同じ病気を抱えて生きているからこそその温度感であったり、それぞれの想

いを感じることができる「生きた場所だな」ということを実感しました。

似たような悩みを乗り越えてきた人たちの想い、リアルな意見や情報を共有することができ、その中で自分に活かせる部分であったり、参考にさせてもらいたい部分を多く見つけることができた時間でした。またぜひ参加したいと思えました。参加された皆さん、企画・進行してくださったスタッフの皆さんありがとうございました。

「プチクリスマスパーティー」 ゆうき (30代/ゲイ)

今回で4回目の参加だったのですが、クリスマスということもあり、どんな感じでみんな参加するのか少し不安でした。ですが、思った以上に参加者も多く、ちょっとしたクリスマスパーティーのような感じで始まりました。今回はクリスマスということで質問の仕方がいつもと違う形でした。紙に質問を書き、箱に入れ、順番に引くという形。今までより匿名性が強調され、普段聞けないような内容の質問もちろほらと。後から考えるとあんなことも書けばよかったなあなんて時間が限られていることが残念に感じました。同じような境遇でも自分の口では聞けないそんな事に、みんな興味があるそんなふうにしてそれだけでも今回参加してよかったなあと思っていました。是非また、このやり方をしてほしいなあと思いました。

「クリスマス気分の語らい」 トモ

(30代男性/ゲイ/告知2012年9月/服薬歴1年3ヶ月)

最近東京へ移り住み、気楽に病気の事を話せる繋がりが欲しくて、U40へ参加させていただきました。今回はクリスマスと言う事で、参加した皆さんが自由に投票したお題をクジにし、一人ずつ引いて答えるルールでした。HIVの話題だけでなく、セックスそのものの際どい質問まで出る中、皆さん少しずつ大胆に語ってくれました。

興味がある事は一般のゲイとそれほど変わらなかったりもするけれど、陽性者生活の事情は、やっぱり当事者同士でないとじっくりディスカッションできない。異なる価値観の方の意見や、ベテランさんの経験談なども、新しい発見がありました。

会終了時のコメントで「普段はもっとかしくまった感じなのに、今日は気軽に話せた」という声があったので、ゲーム感覚で話せたのが良かったのかもしれない。月1で設けられた貴重な機会で、実は話してみたい事はたくさんあるのに、場の空気に遠慮してしまうのはとても残念。今まで以上に、参加者同士の心の距離感を近づけるような雰囲気でしたら、もっといい時間になるかなと思いました。

異性愛者交流ミーティング

HIV陽性者の中ではどちらかというと少数派の異性愛者が、性別・年齢を問わずに交流できるミーティングです。進行は同じ立場の2名のピア・ファシリテーターが担当して行われ、毎回さまざまな話題が取り上げられ活発な意見交換が行われています。このミーティングがスタートしてから2年半、2014年1月のミーティング参加者から3名の感想文をお届けします。

「居心地の良い場所」

りょう

(30代/男性/参加歴約1年半/感染告知2012年/服薬歴約1年)

HIVという共通の課題を抱える仲間が、自分のペースで自由に参加できる場所。『正解』ばかりを求められる日常生活の中、『自分の考え』をありのままに伝え、自分の生き方のヒントとなる『仲間の考え』を気軽に聞くことができる場所。そんな異性愛ミーティングは今の僕にとって居心地の良い場所です。

「好きなヒトにカミングアウトするタイミングは？」、「家族や友人、職場には告知すべき？」、「身体にこんな症状でない？」、「障害者手帳は？」、「恋愛、就活は？」…。十人十色、多様な環境の中、『正解』や『単独解答』のないこんな話を、月に1度2時間程度、性別・年代問わず、自由に各自のスタイルでできることが、今の僕にとっては快適です。

このミーティングで、HIV感染の告知以降、灰色がかった日常に、彩りを与えてくれる蕾(つぼみ)のようなヒトと出会えたことが、今の僕にとっての1番の収穫です！

「ポジティブライフ」

まあ子

(30代/女性/感染告知2005年/服薬歴1年/参加10回以上)

ぷれいすさんとのお付き合いは、2年くらいになります。それまでどうやって、宣告されてから過ごしてきたのか。たぶん病気を受け止めきれなくて、あまり考えられなかったのかも。

でも、2年くらい前に、仲間が欲しいと思い始め、ネットで、ぷれいすの異性愛ミーティングを見つけたのが始まりです。

ミーティングに参加しているうちに、少しずつメンバー達と打ち解けていき、連絡先を交換するようになり。今ではこの病気関係で電話帳に登録している仲間は46人！すごくないですか？

やっぱり病気のことを腹を割って話せる仲間は、そうでない人達に比べて親密感、信頼感が全然違う！私はこの異性愛ミーティングを拠点に、かけがえのない大切な仲間がたくさんできました。

ぷれいすで知り合った仲間達とは、病気以外の部分でもつながっています。私は2年前に勇気を出して、ぷれいすの扉を叩いた自分を心から誉めてあげたい。

今では異性愛ミーティングは、私の大切な毎月のイベント。いつも楽しみに来て、充実した気持ちで帰っています。多種多様な人生をリアルに生きてる皆の濃い話を聞くことは、私のビタミン剤です。

「病気があっても、自分を卑下しないで、自分の人生を心からエンジョイできる。」これが私のミーティングでもらった一番のプレゼントです。

これからもよろしくお願いします！

「思いもせず、自分を見つめ取り戻すよいきっかけに…」

momo (アラフォー男性/異性愛者/参加歴ここ半年くらい)

私の病気感染がわかったの自体は4年半前にエイズを発症して入院をしたときですが、退院後は普通に前と同じ会社でサラリーマンとして仕事もしていますし、経過も安定していること、そして病院やネットで病気に対する知識も十分ありますので、このような会には特に参加せず感染発覚後3年あまりを過ごしていました。

また、当初こそ精神的にすごく落ち込みましたが、メンタル部分も自分ひとりでなんとか消化して生活をしてきていました。そんな私が最初に異性愛者ミーティングに参加したきっかけは、ブログで知り合った方の強いお誘いがあったからでした。

ただ、このような会に参加することについて、自分ではニーズを感じていませんでしたし、同じ病気の人と会って慰めあってもね…。と思っていたので正直なところ参加する意味をあまり感じていませんでした。ただ、強いお誘いがあったので1回だけと思って参加させていただきました。

しかし、一度参加をしたのがきっかけに、自分のこの会に対する考え方がガラッと変わりました。

この会が、同じ病気を持つ人と悩みを共有したり、普段こころにしまっていることを話せる場であること、そしてほんわかした雰囲気の会であることから、いつのまにか居心地のよい場所・自分の戻れる場所のような大切な場になってきているのです。

かれこれ半年以上続けて参加させてもらっています。

この病気であるが故に、一人でだれにも打ち明けずに悩みを消化して生きてきましたが、腹をわって話せる場があるというのは実際全然違うものですね。ブログやネット友達とのつながりは若干はありましたが、リアルはやっぱりいいものです。みんな同じ悩みを抱えながらも、みんな元気に生きている…。また、悩むときは一緒に悩める仲間がいる…。

この会に参加してから、病気を持っていても普通に生きていいんだ、幸せになっていいんだ…。そんな思いがより強くなってきている気がします。今まで病気をきっかけに持っていた無意識のメンタルブロック、病気だから…。という気持ちを開放してくれているんですね～

そして、自分を振り返るすごくよいきっかけの場になってくれています。それもほんわかした会の雰囲気や仲間がいるからだと思います。

この会が自分にとっては大切な場になってきているからこそ、これから新しく来られる方とも色々語りあいながら、一緒に病気を乗り越えて歩いていけばいいかなんて思っています。

参加メンバーも含め温かい雰囲気の会ですので、よかったですら今度参加してみませんか。新しい仲間とこれからもお会いできるのを楽しみにしています～

陰性パートナーミーティング

HIV陽性者の身近にいるパートナーのためのミーティングで、性別、セクシュアリティ、婚姻の有無、パートナーの感染経路などを問いません。2001年7月に始めてから2014年2月まで約13年間に110回開催、のべ404名が参加しています。4名の感想文をご紹介します。

「2人の恩人」 むーこ（30代／男性／ゲイ／初回から参加）
わたしは初回からの参加です。パートナーのHIV感染発覚は、陰性パートナーMTG発足の半年前でした。わたしたちカップルは同じ秘密（パートナーが陽性者であること）を共有し、世間に内緒にしていかななくてはならないはずなのに、陽性者であるパートナーには悩みを共有し、意見交

換、情報交換する場があって、わたし（陰性パートナー）にはなかったことが当時はストレスになっていました。

もしこのMTGの発足があと半年遅かったらパートナーにイライラをぶつけてしまうなど、2人の関係もギクシャクしてしまっていたかも？ そういう意味ではこのMTGはわたしたちカップルの恩人です。わたしの場合の陰性パートナーMTGは、2人の関係の中だけでは発散されないガスを抜く「ガス抜き」的役割なのかと思います。

このMTGの面白いところは、人によって「駆け込み寺」になったり、「経験談を聞けるセミナー」になったりパートナーへの愚痴をこぼすための「井戸端会議」になったりと変幻自在なところ。（わたしは最近ではもっぱら「井戸端会議」利用ですが（笑））発足から13年経った今でも参加していますが、毎回“何か”を持ち帰れている気がします。

「自分を出せる場所」

メイ

（女性／異性愛／パートナーの感染告知2009年）

半年ぶりにパートナーミーティングに参加した。この5年間、来られる時に来るというゆっくりペースで参加させてもらっている。パートナーのこと、自分の気持ち、病気のことはほかでは話せないから、ここはとても大事な場所。きょうはたくさん笑った。ファシリテーターさんや参加の皆さんは、いつも思いやりにあふれている。苦難を乗り越えてきている人たちに囲まれることで私は癒されているなあ実感する。

思い起こせば5年前、パートナーの感染を知った私は崖っぷち。「陰性のパートナーって本当に存在しているの？ 会って話を聞いてみたい、私の話を聞いてもらいたい！」、その思いだけで参加した。デビューの時はボロボロに泣いていたけれど、ぶれいすさんや諸先輩方に癒され、鍛えられ、少しは成長してきたかな。

ここへ来るたびに勇氣と希望をもらっている。皆さん、いつも本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

「経験の分かち合い」

ピョウトル

（男性／参加4回目／パートナーの服薬歴18年）

陽性パートナーがネスト・プログラムに参加し始めてから、次々に参加していましたので私も好奇心が出てきて、その上陽性パートナーと色々な共通趣味があり、二人で一緒に活動してきましたから、私は陰性パートナーが参加できる限りネスト・プログラムに参加してみたいと思っていました。

陰性パートナー・ミーティングではいろんな私の経験とは違う背景のある方の話を聞いたりすること、守秘義務の環境なので私が自由に話せることで自分の視野は広がってきて、孤立した気持ちが弱まってきました。

参加者の話はなるほどと即座にうなずく時もあれば、しばらくして何かがあった時にふと言葉を思い出して、ためになることもあります。

「パートナーとの関係を続けるために必要な場所」

ハルビン餃子

（40代／男／ゲイ／参加回数10回くらい？／陰性パートナー）

なまじっか本人ではないから、陰性パートナーはストレスが溜まるんだと思う。この間も彼氏は薬を飲み忘れそう

になった。本当に気が気じゃない。一番困るのは彼氏本人だと思うけど、傍らで見ていて本当に冷や冷やする。「まったくこっちの身にもなって欲しい！」…そういう愚痴を言える場所は意外と無い。家族にも友達にも事情は話してあるけれど、親し過ぎる相手には、心配させてしまいそうで話せないことも多い。

でも、どこかで発散しないとストレス溜まるし、それでだんだんパートナーと上手くいなくなっちゃう。陰性パートナー・ミーティングではそういうことを話せるか

ら、ちょっとスッキリする。それで根本的な問題が解決するわけではないけれど、参加者同士で話を聞くことで、「そうそう！」って共感したり、他の人の状況に自分を重ねて、客観的に自分を振り返って冷静に考えられるようになったりしている。

僕にとっては、心の安定と、パートナーとの関係を続けるために不可欠な場所だから、いつも二ヶ月に一度の開催を心待ちにしている。

部門報告 (2014年1～3月)



ホットライン

HIV/エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京HIV/エイズ電話相談—

	1月	2月	3月
日 数 (日)	4	4	5
総 時 間 (時間)	16	16	20
相談員数 (延べ人)	5.0	5.0	6.0
相談件数 (件)	35	34	53
うち (男性)	33	29	49
(女性)	2	5	4
(不明)	0	0	0
陽性者相談	0	0	1
要確認相談	0	0	0
1日平均 (件)	8.8	8.5	10.6

—東京都HIV/エイズ電話相談(夜間・休日)—[委託]

	1月	2月	3月
日 数 (日)	12	12	14
総 時 間 (時間)	36	36	42
相談員数 (延べ人)	30	32	33
相談件数 (件)	189	133	204
うち (男性)	141	107	160
(女性)	48	26	44
(不明)	0	0	0
陽性者相談	0	1	4
要確認相談	0	1	0
1日平均 (件)	15.8	11.1	14.6

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

スタッフミーティング

2/23 (12名)

新年企画スタッフ講演会「エイズと私の30年」

講師：池上

1/19 (26名)

新年懇親会

1/29 (24名)

スタッフミーティング(歓送会)

3/16 (20名)

世話人会

2/23 (6名)

※1/19 3/16の世話人会は別企画のため中止

個別ミーティング

3/22 (2名)

東京都電話相談連絡会

1/17 (3名) 2/26 (3名) 3/14 (3名)

ホットライン新人研修修了ミーティング

1/4 (2名)

1月と3月のスタッフミーティングは、企画のため他部門の方にも参加可能としました。

普段なかなか会えない方との交流は、スタッフにとって刺激になったようです。

シフトの運営は、人数的にぎりぎりですが、シフト担当を中心として、スタッフの協力があって、何とか乗り切りました。(報告：佐藤)



Peer Empowerment Program

活動実績

2月11日(祝)「第2回HIVと性の教育セミナー」への参加 (3名)

2月11日に日本性教育協会で開催されたセミナーにスタッフとして参加しました。池上さんの講義の後に、オトナの女性部門の理念や過去の活動について20分ほどお話しさせていただきました。

私たち部門の活動テーマは「セックス・ポジティブ」で、女性がセックスに対して主体的な状態になるための活動をしています。女性が自分のカラダの安全・安心、気持ちよさ、心地よさを選べること、セックスをする/しない、どんなことをするかを決められること、決めたことを表現できて罪悪感を持たないこと、セーフターセックスができること、を目指しています。そして行動変容に重要なのは、「自己肯定感」であり、それを高めるポイントは「共感」と「共有」だと思っています。

参加者のほとんどが保健師や教員、相談員の方たちで、

みなさんが現場で実践できそうなワークのヒントを求めて参加されていたということをアンケートで読み、部門の活動理念やどういう目的でワークショップをしてきたかということよりも、実際に行ったグループワークの内容をお話しすればよかったと感じました。

また、昨年秋から部門メンバーもプロジェクトに参加させて頂いた「SEXUAL HEALTH BOOK②」が完成し、このセミナーで初お披露目となりました。プロジェクトメンバーがどういう思いをこの1冊に込めたか、熱い気持ち、工夫した点などもお話ししました。1冊100円ですので、たくさんの方に是非手に取って頂ければと思っています。

(報告：いみ)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング (1-3月実績)

1/4	: 3名	1/16	: 4名
2/6	: 中止	2/20	: 4名
3/1	: 7名	3/20	: 3名

※ 個別ミーティング 6件

利用者数

8カ所の医療機関に通院中の17名の方に25名のバディスタッフを派遣

活動内容 (2014年3月末現在)

派遣継続中	17件
在宅訪問	17件
病室訪問	0件
派遣休止	4件

1月～3月中の動き

・派遣調整 14件

今後のミーティング日程

午前ミーティング:

偶数月第1木曜 11:00 / 奇数月第1土曜 11:00

5/3(土) 6/5(木) 7/5(土)

※木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング: 毎月 第3木曜 19:00

5/15(木) 6/19(木) 7/17(木)

バディの現場から

午後ミーティングについて、4月から開始時間を18:30から、19:00に変更しました。参加する方は、お間違えないようにお願いします。

4/6(日)のぶれいす東京のお花見に、利用者の3名の方から参加希望があり、バディが同行して参加する予定でしたが、生憎の天候で中止になってしまいました。来年はぜひ参加できればと思います。(報告：牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況 (2014年1-3月)

グループ・ミーティング

・新陽性者ピア・グループ・ミーティング (PGM) 第72期 (参加者7名)

1/11 1/25 2/11 2/22 (修了)

・第3回新陽性者PGM同窓会

3/1 (6名、ピア・ファシリテーター1名、
スタッフ・ファシリテーター1名)

・ミドル・ミーティング

1/11 (19名) 2/8 (14名) 3/8 (26名)

・異性愛者のための交流ミーティング

1/18 (10名) 2/21 (13名) 3/29 (15名)

・Women's Salon「午後のお茶会～女子のためのフリー
トーク(3)～」

2/1 (参加者1名)

・陰性パートナー・ミーティング

2/1 (5名)

・もめんの会 (HIV/AIDS を支える母親の会)

3/11 (3名)

・新年カップル交流会

1/4 (9組18名、内幹事1組2名)

学習会/ワークショップ

・アサーティブ・コミュニケーション 自己表現の
ABC 第3期

1/25 (10名) 1/26 (10名)

・ストレス・マネジメント講座 第21期

1/27 (5名) 2/17 (7名) 3/10 (5名)

・ベーシック講座「社会福祉制度」

2/22 (2名)

トークサロン

・就職活動を報告しあう会

1/15 (6名) 2/15 (3名) 3/19 (3名)

・介護職として働く陽性者のミーティング

2/18 (5名)

・看護師として働く陽性者のミーティング

1/29 (5名) 3/19 (2名)

ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
第72期振り返り 3/7 (6名、8名)

・web NEST運営委員会

2/28 (2名、2名)

ピア・ファシリテーターによるプログラム等(厚生労働省委託事業)

・U40(アンダー・フォーティー)ミーティング

～10代から30代の男性HIV陽性者のミーティング～

2/8 (参加者4名、ピア・ファシリテーター2名)

2/20 (9名、2名) 3/20 (9名、2名)

・第3回就職支援セミナー

1/22 (24名、参加企業2社)

・セクレタリー(16回 17名)

・ピア・ファシリテーター(7回 11名)

ネスト・ニュースレター

1/9: 1月号発行

2/6: 2月号発行

3/6: 3月号発行

(報告：佐藤、加藤、はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

1月 6件 (1日平均1.50件)
2月 14件 (1日平均3.50件)
3月 6件 (1日平均1.20件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

1月：0件 2月：0件 3月：0件

QOGL vol.4

タバコをテーマに2月8日(土)に開催予定として前号でご案内いたしました「QOGL ~Quality of Gay Life vol.4」ですが、当日首都圏での大雪の影響により帰宅困難者を出すおそれがあるため、中止とさせていただきます。ご期待いただいた皆様には改めてお詫び申し上げます。

その後、振替開催のお問い合わせなどもいただき、検討しました結果、5月17日(土)19:00より、改めて開催することにいたしました。しらかば診療所の井戸田一朗先生を講師に、Go-Go BOYの孔明さんなどゲイコミュニティからのゲストもお招きして、高田馬場にある戸塚地域センターで開催いたします。

ぶれいす東京の活動報告会を翌週に控え、2週連続のイベントとなりますが、多くの方のご来場をお待ちしております！
(報告：sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績2014年1～3月

	1月	2月	3月
電話による相談	91	101	119
対面による相談	54	51	55
E-mailによる相談等	81	74	79
うち新規相談	27	19	35

※メール新規は含まず

1～3月の新規相談者の属性(N=81)

陽性者： 53人(男性：52 女性：1)
パートナー： 9人(男性：6 女性：3)
家族： 4人(男性：1 女性：3)
専門家： 5人(男性：3 女性：2)
判定保留： 6人(男性：3 女性：3)
その他： 4人(男性：3 女性：1)

1～3月新規相談者の情報源(N=81)

WEB(PC/携帯サイト含) : 39件
医療関係(Dr.、Ns.、MSW、クリニックなど) : 10件
人的ネットワーク(家族、友人、パートナー他) : 9件
エイズ電話相談(財団、東京都、ぶれいす等) : 6件
冊子、パンフレット、チラシ : 5件
保健所、検査所 : 3件
行政機関等 : 3件
カウンセラー : 2件
以前から知っていた : 1件
他陽性者 : 1件
他団体(国内NGO/海外NGO) : 1件
献血 : 1件

1～3月新規相談の内容(複数回答あり)

【ぶれいす東京のサービス利用、積極的参加等】〔近畿〕

- ・利用登録×11(就職セミナー×3、新人PGM×4、看護師×2、異性愛×1、U40×1、登録のみ×1)
- ・ネスト・プログラムへの参加希望

【検査や告知に関する相談】〔近畿、中国/四国、九州/沖縄〕

<判定保留/確認検査待ち>

- ・(判定保留)保健所検査、確認検査待ちの不安 2件
- ・(判定保留)不妊治療の検査、確認検査待ちの不安 2件
- ・(判定保留)術前検査で陽性、家族に感染させないか
- ・(判定保留)術前検査で陽性、確認検査待ちの不安

【告知直後の漠然とした不安】〔近畿〕

- ・医療機関の選択×3
- ・初期症状の髄膜炎による入院と退職、服薬への不安
- ・健康診断の再検査で判明、直後の混乱
- ・健康保険の使用と自費治療
- ・今後のセックス
- ・肺炎で判明し入院中、漠然とした不安
- ・職場や周囲への通知について、てんかん有り
- ・退院直後の体調不安、復職について

【対人関係に関する相談】〔東海、近畿、九州/沖縄〕

- ・パートナーの感染判明と支援
- ・SNSやネットでの陽性者同士の人間関係
- ・自宅/職場への脅迫への対応
- ・職場の上司に通知後不当に異動、法的な対応
- ・通知したパートナーの不安や混乱

【生活に関する相談】〔甲信越/北陸、海外〕

- ・障害年金について
- ・海外渡航、現地での治療
- ・通院中断中、通院と生活保護の受給
- ・マンションの購入、障害者控除について
- ・海外赴任中、自費で服薬中、帰国後の治療や医療費
- ・健康保険の切替の不安、過去の二重加入と支払い
- ・仕事での海外赴任時の滞在資格、海外の情報
- ・生命保険の維持や加入

【就労に関する相談】

- ・今後の就職活動 × 3件
- ・医療従事者、就労継続の不安

【医療体制や受診に関する相談】〔東海、九州/沖縄〕

- ・医師とのコミュニケーション不足、対応への不満
- ・医療機関への不満と転院、身体の麻痺
- ・入院中、転院先の拠点病院の情報について
- ・主治医の異動に伴う転院、就職後の通院

【病気や病態の変化、服薬】〔甲信越/北陸〕

- ・悪性腫瘍の治療と今後の生活
- ・悪性リンパ腫の可能性と不安
- ・服薬前の不安
- ・投薬保留中、投薬への不安や抵抗感

【心理や精神に関する問題】

- ・精神疾患との付き合い方
- ・薬物依存、投薬への抵抗感

【周囲の人からの相談】〔甲信越/北陸、東海、近畿、九州/沖縄〕

<パートナー/配偶者>

- ・(陰バ)夫が発症で判明、今後の離婚や経済的な問題

- ・(陰バ)通知後の混乱、相手の支援
- ・(陰バ)パートナーの精神的不安定さ、体調の不安
- ・(陰バ)自分の感染の可能性
- ・(陰バ)病気の受容が難しい
- ・(陰バ)パートナーの生命保険の加入
- ・(陰バ)通知直後の不安や混乱、病気の受容が難しい
- ・(元バ)元パートナーの感染と今後の支援
- ・(元バ)通知を受けての混乱、家族や自分の感染の可能性

<家族(親、兄弟)/親戚>

- ・(きょうだい)入院中のきょうだいの処遇
- ・(きょうだい)精神疾患もあるきょうだいの対応
- ・(家族)子どもの薬物依存、今後の対応
- ・(家族)未通知の家族、障害手帳を見つけての混乱

<その他>

- ・(知人)知人の医療現場での就労継続、通知義務
- ・(友人)周囲への感染、治療の現状、医療機関の情報
- ・(友人)告知直後の友人の対応、検査の信憑性
- ・(友人)友人の職場に陽性者が入るらしく混乱気味、今後の対応

<専門家>

- ・(職場上司)障害枠での配属予定を聞いて混乱、健康診断の受診等
- ・(施設)陽性者の入所の打診あり、他の入所施設の有無
- ・(職場)社員から通知を受けての社内の混乱、今後の対応
- ・(保健師)海外の入国規制、滞在資格
- ・(行政)障害者の就労支援の情報

(報告：牧原／生島／福原)



研究・研修部門

研究事業

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域においてHIV陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究」

(研究代表者：樽井正義)

- ・「NGO等におけるHIV陽性者、薬物使用者への支援の研究」(樽井分担研究)のインタビュー調査を実施、分析中。
- ・「薬物使用者を対象にした聞き取り調査 ～HIVと薬物依存との関連要因をさぐる」(生島分担研究)のインタビュー調査を実施、分析中。
- ・「健康と生活に関する調査」(若林分担研究)の調査票を全国のブロック拠点病院および中核拠点病院で配布、回収中。
- ・1月10日：平成26年度継続申請書および中間評価資料を提出。
- ・1月14日：肥田分担研究会議を開催。参加者4名。
- ・2月6日：第20回国際エイズ会議に演題登録。
- ・2月8日：平成25年度エイズ対策研究成果発表会にて発表。
- ・2月26日：AIDS & Society研究会議にて講演。参加者17名。
- ・3月22日～23日：平成25年度第4回班会議を開催。参加者8名。

研修事業

JASE東京性教育研修セミナー2014冬

- ・2月11日：
第2回HIVと性の教育セミナー「いつでも、どこでも、だれにでもできる性の教育～若者たちに伝えたいメッセージ・伝える工夫～」(於日本性教育協会)を主催。参加者36名。

職場研修(東京障害者職業センター「雇用管理サポート」事業など)

- ・2月12日：東京障害者職業センター「雇用サポート講習会」にて講演。参加者18名。
- ・3月14日・20日：三井物産ビジネスパートナーズにて講演。参加者30名。

受託研修協力

- ・2月22日～23日：青年海外協力隊エイズ対策技術補完研修(シェア＝国際保健協力市民の会主催)に運営協力。参加者14名。

その他の講師派遣・研修

- ・1月5日：「Living Together計画／新春トークイベント Re-United in Anger」にて講演。参加者78名。
- ・1月15日：
東京YMCA国際ホテル専門学校にて講義。参加者14名
- ・1月18日～19日：
沖縄看護師研修会、mabuiにて講演。参加者15名。
- ・2月8日：
HIV/AIDS看護学会にて講演。参加者15名。
- ・3月5日：
板橋区保健所にて講演。参加者19名。
- ・3月6日：
東京都立中央ろう学校にて講義。参加者40名。
- ・3月23日：
映画「トークバック」ミニワークショップ／トークにて講演。参加者80名。

(報告：生島・牧原・大槻)

新しいパンフレットができました！ 「HIV陽性者とその周囲の人のためのサービス」案内



カラフルな変形三つ折りパンフは通称「ガラパン」



特定非営利活動法人 ぷれいす東京
2013年度活動報告会のご案内

20th
ANNIVERSARY

ぷれいす東京では、恒例の活動報告会を今年も開催します。リレー方式の部門報告では、日頃の活動を現場感覚いっぱいにお届けします。

今年はぷれいす東京設立20年目の節目です。後半のトークコーナー「ぷれトーク!」では、各部門のスタッフに登場してもらいます。参加した動機はなにか、実際に参加してみてどうだったか等々、どんなトークが繰り広げられるか、みなさま、お楽しみに!また、長年ぷれいす東京にボランティアとして参加しているスタッフへの感謝状贈呈も行う予定です。

■ 日時

2014年5月25日(日)

14:20～17:00(開場14:00～)

- ・どなたでも参加できます。
- ・ぷれいす東京の会員、賛助会員、寄付者、ネスト・プログラム利用者は無料。それ以外の方は、参加費として1,000円いただきます。
- ・当日、ぷれいす東京の2013年度年間活動報告書をお渡しします。

■ 会場



■ プログラム

[前半]

○部門報告

ホットライン / Peer Empowerment Program /
Gay Friends for AIDS / バディ / ネスト /
HIV陽性者への相談サービス / 研究・研修

[後半]

○ボランティアへの感謝状贈呈

○トークコーナー

「ぷれトーク!」 司会: 生島 嗣



2012年度活動報告会での報告、トークコーナーの様子

■ 懇親会

活動報告会終了後に会費制の懇親会を予定しています。お酒を飲む人も飲まない人も、ネットワークを広げませんか?活動報告会の前半までにお申し込みいただければ、参加できます。

■ 当日の問い合わせ先

ぷれいす東京 携帯電話: 080-5387-8341(当日13:00～)

特定非営利活動法人 ぷれいす東京
2013年度 総会について

5月25日(日) 13:15～13:50

会場 新宿区戸塚地域センター 多目的ホール

※総会の議決に参加できるのは正会員のみとなります。

編集後記

- ・気になってたベジカフェに行ったり、モスクのステンドグラスの美しさに感動したり、恒例となっている都内で過ごすゴールデンウィークを今年も満喫できて幸せ♡活動報告書は作成中だけど…。(こんどう)
- ・4月29日にぷれいす東京20周年を記念したシンポジウムを開催。トークでは、池上、根岸、樽井、宮田の4理事に、この20年を振り返ってもらった。会場には約100人が集い、遠方からの顔も。今後につながる、充実した時だった。(いくしま)
- ・20周年を記念した巻頭シリーズが始まりました。まずは東優子さん。設立当初の知らないことがたくさん出てきましたネ。あの時があって今があるんだなーって……。このシリーズ81号～84号まで1年間お届けする予定です。乞うご期待!(やじま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぷれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403
TEL: 03-3361-8964(月～土12～19時 ※祝祭日を除く)
FAX: 03-3361-8835
E-mail: office@ptokyo.com

ぷれいす東京: <http://www.ptokyo.com/>
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>
Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)
Facebook: <http://www.facebook.com/PLACETOKYO>